

貸借対照表

2021年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	64,218,110	69,035,120	-4,817,010
流動資産合計	64,218,110	69,035,120	-4,817,010
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産普通預金	100,057,142	91,475	99,965,667
基本財産投資有価証券	1,899,942,858	1,999,908,525	-99,965,667
基本財産合計	2,000,000,000	2,000,000,000	0
(2) 特定資産			
建物	971,611,055	988,676,988	-17,065,933
助成基金	150,000,000	160,000,000	-10,000,000
運営基金	220,000,000	250,000,000	-30,000,000
特定資産合計	1,341,611,055	1,398,676,988	-57,065,933
(3) その他固定資産			
機械装置	1,848,260	2,621,970	-773,710
什器備品	452,424	540,583	-88,159
ソフトウェア	2	2	0
電話加入権	601,328	601,328	0
保証金	20,000	20,000	0
その他固定資産合計	2,922,014	3,783,883	-861,869
固定資産合計	3,344,533,069	3,402,460,871	-57,927,802
資産合計	3,408,751,179	3,471,495,991	-62,744,812
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	316,149	292,641	23,508
流動負債合計	316,149	292,641	23,508
負債合計	316,149	292,641	23,508
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	3,408,435,030	3,471,203,350	-62,768,320
正味財産合計	3,408,435,030	3,471,203,350	-62,768,320
負債及び正味財産合計	3,408,751,179	3,471,495,991	-62,744,812

貸借対照表内訳表

2021年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業	収益事業等	法人会計	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	43,585,258	16,913,238	3,719,614	64,218,110
流動資産合計	43,585,258	16,913,238	3,719,614	64,218,110
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
基本財産普通預金	100,000,000	0	57,142	100,057,142
基本財産投資有価証券	1,100,000,000	0	799,942,858	1,899,942,858
基本財産合計	1,200,000,000	0	800,000,000	2,000,000,000
(2) 特定資産				
建物	607,256,898	242,902,770	121,451,387	971,611,055
助成基金	150,000,000	0	0	150,000,000
運営基金	0	0	220,000,000	220,000,000
特定資産合計	757,256,898	242,902,770	341,451,387	1,341,611,055
(3) その他固定資産				
機械装置	739,304	924,123	184,833	1,848,260
什器備品	226,202	180,975	45,247	452,424
ソフトウェア	2	0	0	2
電話加入権	300,664	240,532	60,132	601,328
保証金	0	0	20,000	20,000
その他固定資産合計	1,266,172	1,345,630	310,212	2,922,014
固定資産合計	1,958,523,070	244,248,400	1,141,761,599	3,344,533,069
資産合計	2,002,108,328	261,161,638	1,145,481,213	3,408,751,179
II 負債の部				
1. 流動負債				
預り金	129,209	65,592	121,348	316,149
流動負債合計	129,209	65,592	121,348	316,149
負債合計	129,209	65,592	121,348	316,149
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0	0	0
2. 一般正味財産	2,001,979,119	261,096,046	1,145,359,865	3,408,435,030
正味財産合計	2,001,979,119	261,096,046	1,145,359,865	3,408,435,030
負債及び正味財産合計	2,002,108,328	261,161,638	1,145,481,213	3,408,751,179

正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	19,927,012	19,385,725	541,287
基本財産受取利息	19,927,012	19,385,725	541,287
特定資産運用益	1,296,104	1,438,154	-142,050
助成基金受取利息	731,127	731,135	-8
運営基金受取利息	564,977	707,019	-142,042
事業収益	27,640,729	32,598,624	-4,957,895
貸事務所・住戸受取賃貸料	9,853,569	15,175,484	-5,321,915
駐車場受取賃貸料	16,516,000	16,161,610	354,390
その他施設受取賃貸料	1,271,160	1,261,530	9,630
受取補助金	4,368,000	4,087,602	280,398
受取地方公共団体補助金	4,368,000	3,737,602	630,398
受取国庫助成金	0	350,000	-350,000
受取返納金	4,599,725	2,356,460	2,243,265
受取大学支援事業返納金	4,599,725	2,356,460	2,243,265
雑収益	323,285	1,046,279	-722,994
雑収益	323,285	1,046,279	-722,994
経常収益計	58,154,855	60,912,844	-2,757,989
(2) 経常費用			
事業費	106,311,364	94,921,363	11,390,001
教育研究活動支援金	23,000,000	20,500,000	2,500,000
国際交流活動支援金	6,440,000	7,640,000	-1,200,000
学術研究成果の普及支援金	1,500,000	2,000,000	-500,000
アワード支援金	1,140,000	1,340,000	-200,000
新産業創出支援金	3,200,000	3,997,000	-797,000
給料手当	8,619,176	7,731,284	887,892
福利厚生費	1,101,360	1,193,920	-92,560
会議費	380,870	413,284	-32,414
旅費交通費	74,388	197,189	-122,801
消耗品費	682,162	1,049,949	-367,787
修繕費	13,874,497	1,339,208	12,535,289
通信運搬費	1,034,139	732,627	301,512
印刷製本費	1,138,060	1,157,900	-19,840
減価償却費	15,716,532	16,010,210	-293,678
賃借料	1,695,003	1,973,729	-278,726
光熱水料費	8,459,651	8,899,183	-439,532
諸謝金	1,251,600	1,699,000	-447,400
保険料	1,110,724	1,113,919	-3,195
租税公課	326,849	339,668	-12,819
委託費	15,210,610	14,648,875	561,735
雑費	355,743	944,418	-588,675
管理費	14,611,811	12,254,220	2,357,591
役員報酬	600,000	600,000	0
給料手当	5,534,213	4,964,104	570,109
福利厚生費	722,250	766,566	-44,316
会議費	0	1,126	-1,126
旅費交通費	50,000	32,810	17,190
消耗品費	47,553	59,568	-12,015
修繕費	1,975,783	167,336	1,808,447
通信運搬費	139,243	100,093	39,150
減価償却費	2,211,270	2,214,888	-3,618
賃借料	149,875	181,069	-31,194
光熱水料費	1,208,504	1,271,293	-62,789
保険料	130,011	130,011	0
委託費	1,428,185	1,363,475	64,710
租税公課	209,851	218,082	-8,231
雑費	205,073	183,799	21,274
経常費用計	120,923,175	107,175,583	13,747,592
評価損益等調整前当期経常増減額	-62,768,320	-46,262,739	-16,505,581
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-62,768,320	-46,262,739	-16,505,581

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-62,768,320	-46,262,739	-16,505,581
一般正味財産期首残高	3,471,203,350	3,517,466,089	-46,262,739
一般正味財産期末残高	3,408,435,030	3,471,203,350	-62,768,320
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	3,408,435,030	3,471,203,350	-62,768,320

正味財産増減計算書内訳表

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業	収益事業等	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基 本 財 産 運 用 益	11,935,609	0	7,991,403	19,927,012
基 本 財 産 受 取 利 息	11,935,609	0	7,991,403	19,927,012
特 定 資 産 運 用 益	731,127	0	564,977	1,296,104
助 成 基 金 受 取 利 息	731,127	0	0	731,127
運 営 基 金 受 取 利 息	0	0	564,977	564,977
事 業 収 益	0	27,640,729	0	27,640,729
貸 事 務 所 ・ 住 戸 受 取 賃 貸 料	0	9,853,569	0	9,853,569
駐 車 場 受 取 賃 貸 料	0	16,516,000	0	16,516,000
そ の 他 施 設 受 取 賃 貸 料	0	1,271,160	0	1,271,160
受 取 補 助 金	1,646,736	1,013,376	1,707,888	4,368,000
受 取 地 方 公 共 団 体 補 助 金	1,646,736	1,013,376	1,707,888	4,368,000
受 取 返 納 金	4,599,725	0	0	4,599,725
受 取 大 学 支 援 事 業 返 納 金	4,599,725	0	0	4,599,725
雑 収 益	143,723	99,463	80,099	323,285
雑 収 益	143,723	99,463	80,099	323,285
経常収益計	19,056,920	28,753,568	10,344,367	58,154,855
(2) 経常費用				
事 業 費	81,733,086	24,578,278	0	106,311,364
教 育 研 究 活 動 支 援 金	23,000,000	0	0	23,000,000
国 際 交 流 活 動 支 援 金	6,440,000	0	0	6,440,000
学 術 研 究 成 果 の 普 及 支 援 金	1,500,000	0	0	1,500,000
ア ワ ー ド 支 援 金	1,140,000	0	0	1,140,000
新 産 業 創 出 支 援 金	3,200,000	0	0	3,200,000
給 料 手 当	5,335,708	3,283,468	0	8,619,176
福 利 厚 生 費	681,795	419,565	0	1,101,360
会 議 費	380,870	0	0	380,870
旅 費 交 通 費	74,388	0	0	74,388
消 耗 品 費	557,226	124,936	0	682,162
修 繕 費	9,878,927	3,995,570	0	13,874,497
通 信 運 搬 費	761,932	272,207	0	1,034,139
印 刷 製 本 費	723,800	414,260	0	1,138,060
減 価 償 却 費	10,987,149	4,729,383	0	15,716,532
賃 借 料	1,373,240	321,763	0	1,695,003
光 熱 水 料 費	6,042,624	2,417,027	0	8,459,651
諸 謝 金	1,251,600	0	0	1,251,600
保 険 料	652,052	458,672	0	1,110,724
租 税 公 課	202,335	124,514	0	326,849
委 託 費	7,218,880	7,991,730	0	15,210,610
雑 費	330,560	25,183	0	355,743
管 理 費	0	0	14,611,811	14,611,811
役 員 報 酬	0	0	600,000	600,000
給 料 手 当	0	0	5,534,213	5,534,213
福 利 厚 生 費	0	0	722,250	722,250
旅 費 交 通 費	0	0	50,000	50,000
消 耗 品 費	0	0	47,553	47,553
修 繕 費	0	0	1,975,783	1,975,783
通 信 運 搬 費	0	0	139,243	139,243
減 価 償 却 費	0	0	2,211,270	2,211,270
賃 借 料	0	0	149,875	149,875
光 熱 水 料 費	0	0	1,208,504	1,208,504
保 険 料	0	0	130,011	130,011
委 託 費	0	0	1,428,185	1,428,185
租 税 公 課	0	0	209,851	209,851
雑 費	0	0	205,073	205,073
経常費用計	81,733,086	24,578,278	14,611,811	120,923,175
評価損益等調整前当期経常増減額	-62,676,166	4,175,290	-4,267,444	-62,768,320
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	-62,676,166	4,175,290	-4,267,444	-62,768,320

科 目	公益目的事業	収益事業等	法人会計	合 計
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	35,000,000	-5,000,000	-30,000,000	0
当期一般正味財産増減額	-27,676,166	-824,710	-34,267,444	-62,768,320
一般正味財産期首残高	2,029,655,285	261,920,756	1,179,627,309	3,471,203,350
一般正味財産期末残高	2,001,979,119	261,096,046	1,145,359,865	3,408,435,030
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,001,979,119	261,096,046	1,145,359,865	3,408,435,030

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券（次の3銘柄を除く）・・・原価法によっている。

満期保有目的の債券（次の3銘柄）・・・・・・償却原価法によっている。

- ・ゴールドマンサックスグループ 円建外債（10年）
- ・みずほフィナンシャルグループ 第3回劣後債（10年）
- ・HSBCホールディングス 第3回円貨社債（10年）

(2) 固定資産の減価償却の方法

建物、機械装置、什器備品及びソフトウェア・・・・・・定額法によっている。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産普通預金	91,475	400,000,000	300,034,333	100,057,142
基本財産投資有価証券	1,999,908,525	300,034,333	400,000,000	1,899,942,858
小計	2,000,000,000	700,034,333	700,034,333	2,000,000,000
特定資産				
建物	988,676,988	0	17,065,933	971,611,055
助成基金	160,000,000	0	10,000,000	150,000,000
運営基金	250,000,000	0	30,000,000	220,000,000
小計	1,398,676,988	0	57,065,933	1,341,611,055
合計	3,398,676,988	700,034,333	757,100,266	3,341,611,055

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
基本財産普通預金	100,057,142	—	(100,057,142)	—
基本財産投資有価証券	1,899,942,858	—	(1,899,942,858)	—
小計	2,000,000,000	—	(2,000,000,000)	—
特定資産				
建物	971,611,055	—	(971,611,055)	—
助成基金	150,000,000	—	(150,000,000)	—
運営基金	220,000,000	—	(220,000,000)	—
小計	1,341,611,055	—	(1,341,611,055)	—
合計	3,341,611,055	—	(3,341,611,055)	—

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額及び 資産計上額	減価償却累計額	当期末残高
(建物)	*当初(3,266,856,170)	(2,072,980,372)	**2008年度末(1,193,875,798)
建物	1,193,875,798	222,264,743	971,611,055
機械装置	42,797,942	40,949,682	1,848,260
什器備品	9,097,384	8,644,960	452,424
ソフトウェア	6,473,250	6,473,248	2
合計	1,252,244,374	278,332,633	973,911,741

* 1993年(平成5年)竣工時

** 2008年度(平成20年度)末

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
ゴールドマンサックスグループ 円建外債 (10年)	99,977,083	102,000,000	2,022,917
バンクオブアメリカ 円建外債 (10年)	100,000,000	101,895,000	1,895,000
みずほフィナンシャルG 第3回劣後債 (10年)	100,000,000	101,310,000	1,310,000
みずほフィナンシャルG 第3回劣後債 (10年)	99,965,775	101,150,000	1,184,225
スタンダードチャータード銀行 第3回円貨債 (10年)	100,000,000	100,590,000	590,000
三菱UFJフィナンシャル・グループ 第5回劣後債 (10年)	100,000,000	102,028,000	2,028,000
三井住友フィナンシャルグループ 第10回劣後債 (10年)	100,000,000	99,870,000	△ 130,000
三菱UFJフィナンシャル・グループ 第11回劣後債 (10年)	100,000,000	98,936,000	△ 1,064,000
パナソニック 第17回社債 (10年)	100,000,000	101,103,900	1,103,900
三井住友トラスト・ホールディングス 第4回劣後債 (10年)	100,000,000	99,880,000	△ 120,000
コンコルディア・フィナンシャルG 第1回劣後債 (10年)	100,000,000	100,086,700	86,700
関西電力 第511回社債 (10年)	100,000,000	100,953,000	953,000
モルガンスタンレー 円建外債 (10年)	100,000,000	99,367,000	△ 633,000
野村ヨーロッパファイナンス クレジットリンク債 (参照組織：パークシャーハサウェイ) (10年)	100,000,000	100,060,000	60,000
東京電力パワーグリッド 第31回社債 (10年)	100,000,000	102,209,000	2,209,000
野村グローバルファイナンス クレジットリンク債 (参照組織：ウェルズファーゴ) (9年11ヵ月)	100,000,000	98,040,000	△ 1,960,000
北國銀行第2回劣後債 (10年)	100,000,000	100,026,700	26,700
パークレイズ銀行クレジットリンク債 (参照組織：サウジアラビア) (9年9ヵ月)	100,000,000	98,680,000	△ 1,320,000
パークレイズ銀行 円建外債 (30年)	100,000,000	100,880,000	880,000
以上基本財産	1,899,942,858	1,909,065,300	9,122,442
HSBCホールディングス 第3回円貨社債 (10年)	102,599,323	101,530,000	△ 1,069,323
モルガンスタンレー 円建外債 2028.9 (9年11ヵ月)	100,000,000	101,277,600	1,277,600
以上特定資産	202,599,323	202,807,600	208,277

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
地方公共団体補助金	奈良県	0	4,368,000	4,368,000	0	—

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。

2. 引当金の明細

該当なし

事業報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公益財団法人 奈良先端科学技術大学院大学支援財団は、国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学が持つ斬新かつ優れた特性および機能が最大限に発揮されるよう、事業計画にもとづき、各種支援事業・地域交流事業に取り組みました。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、一部の事業においては中止や縮小が生じ、また集客型の事業においては感染対策に留意しながら実施しました。

各事業の実績については、以下のとおりです。

1. 大学院大学に対する支援事業

令和2年2月25日に開催した支援事業選考委員会において、令和2年度の大学院大学に対する支援事業の内容を以下のとおり決定し、32,300千円の助成金を交付しました。

(1) 教育研究活動に対する支援

① 研究テーマ助成

10名、15,000千円（助教 6名、11,000千円／博士後期課程学生 4名、4,000千円）

氏名	所属・職名	研究テーマ
福島 誠	情報科学領域 数理情報学研究室・助教	脳活動と脳機能結合の時空間ダイナミクスの統合的解析
高橋 直紀	バイオサイエンス領域 植物成長制御研究室・助教	ストレスに応答した植物の成長抑制機構の分子基盤の解明
市川 宗巖	バイオサイエンス領域 構造生命科学研究室・助教	繊毛ダブレット微小管の原子モデル構築
宮島 俊介	バイオサイエンス領域 植物発生シグナル研究室・助教	根冠が統御する根の病害応答と発生動態
松尾 恭平	物質創成科学領域 有機光分子科学研究室・助教	ホウ素錯化を利用した有機電子材料の開発
西野 智雄	物質創成科学領域 バイオミメティック分子科学研究室・助教	分子ドメインの精密な構造制御にもとづく分子メモリーの構築
水津 了	先端科学技術研究科 光情報分子科学研究室・博士後期課程2年	光照射のみでドーピング可能な高導電性有機半導体の開発
黒崎 滯	先端科学技術研究科 有機光分子科学研究室・博士後期課程1年	湾曲ナノカーボンの精密有機合成
CHAN Yee Seng	先端科学技術研究科 有機光分子科学研究室・博士後期課程1年	Towards Synthesis of Cyclacene

奥野 亮太	先端科学技術研究科 先進機能材料研究室・ 博士後期課程 2 年	コアシェル型多孔質シリコン 負極の酸化物系全固体リチウム イオン電池への応用
-------	------------------------------------	--

②新任教授スタートアップ助成

新任教授が研究体制を整備して研究活動をスムーズに始められるよう支援しました。

4名、6,000千円

氏名	所属・職名	研究テーマ
荒牧 英治	情報科学領域・教授	ヒトAI共生圏にむけたソーシャル・コンピューティン グ基盤の構築
渡辺 太郎	情報科学領域・教授	知識グラフを統合したニューラル機械翻訳
西條 雄介	バイオサイエンス領域・教授	水輸送制御を介した植物の免疫応答
松下 智裕	物質創成科学領域・教授	原子分解能ホログラフィーが拓く原子構造科学

③社会人ドクター修学支援

企業に所属している社会人の修学を促進するため、社会人学生のうち、入学料と授業料を自己負担して博士後期課程に入学する学生に対する支援を行いました。なお、当初は支援対象者10名で計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で対象となる入学者が減り、7名に支援しました。

7名、1,400千円

(2)国際交流活動に対する支援

①海外派遣支援

海外の国際会議において、研究成果を発表する博士後期課程学生を支援しました。

当初は支援対象者33名、3,515,950円(情報科学領域 12名、バイオサイエンス領域 6名、物質創成科学領域 15名)で計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催中止や、オンライン開催となったため、9名に支援しました。

9名、348,587円

②外国人留学生支援

教育研究の国際化を推進するため、博士後期課程に入学する外国人留学生の中から大学院大学が選考した留学生に対し、渡日旅費と入学料を支援しました。なお、当初は支援対象者6名、2,652千円(旅費支援 960千円/入学料支援 1,692千円)で計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で渡日が中止となり対象が減り、3名に支援しました。

3名、645,784円(旅費支援 81,784円/入学料支援 564,000円)

③大学間交流活動支援

学術交流協定に基づき、タイ・カセサート大学、ドイツ・ミュンヘン工科大学、フランス・パリサクレ大学における研究開発或いはインターンシップ、また、NAISTにおけるマレーシア国民大学との生物情報科学に関する共同研究を行うための渡航費用を支援として、当初は支援対象者3名、272,050千円で計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全てが中止となりました。

(3)学術研究成果の普及に対する支援

意見交換会や講演会、研究業績報告会、シンポジウムなど、大学院大学の研究成果を広く社会に還元するための取り組みを支援しました。なお、当初は支援対象5件、1,500千円で計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3件が中止となりました。また、開催した2件についても規模の縮小されたため、2件320,300円支援しました。

名称	開催日・場所	代表者	参加対象	助成額
Novel Biclustering Algorithm BiClusO	2020年8月(予定) Indian Institute of Engineering Science and Technology, Shibpur, West Bengal, India	情報科学領域 准教授 Md. Altaf-Ul-Amin	Spreading research result and collaborative research	170千円 中止
The 2nd International Workshop on BRIdging the Divides with Globally Engine	2020年9月中旬(予定) / パプアニューギニア	情報科学領域 助教 Raula Gaikovina Kula	海外研究者	330千円 中止
学生募集シンポジウム	令和2年2月19日 オンライン開催	バイオサイエンス 領域長 教授 橋本 隆 広報渉外委員長 教授 河合太郎	バイオサイエンス領域の教職員及び学生。 受験を考えている大学学部生、修士学生、高専生、社会人等	157.3 千円
NAIST物質創成科学領域 公開研究業績報告会	令和2年2月22日 奈良先端大	物質創成科学 領域長 教授 太田 淳	全国の大学生・高校生、中学・高校の理科教諭、社会人、地域住民	163千円

CU-NAIST-TLL Trilateral Symposium	2020 年 6 ～ 9 月 頃 奈良先端科学技術大 学院大学	バイオサイエンス領 域 領域長 橋本 隆 教授 河合 太郎	共同研究や学 生	310千円 中止
---	---------------------------------------	--	-------------	-------------

(4) アワード事業

① N A I S T 最優秀学生賞

学習や研究に対する意欲を高めるため、令和2年3月24日に開催された学位記授与式において、優秀な成績を修めた博士前期課程と博士後期課程の修了生を理事長名で表彰し賞金を授与しました。

14名、840千円

情報科学研究科（領域）	博士前期課程	松田明大、宮本佳奈 ILBOUDO WENDYAN ERIC LIONEL
	博士後期課程	河中祥吾、原 崇徳 ANDOROS TIANDRA
バイオサイエンス研究科（領域）	博士前期課程	川村 純平、竹内 梓
	博士後期課程	上野 大心、奥出 遥奈
物質創成科学研究科（領域）	博士前期課程	上村 将之、加納 春華
	博士後期課程	久野 純平 WUTHIBENJAPHONCHAI NAT TAKARN

② 教員表彰

教育研究活動で優れた業績を挙げた教員に対する表彰に際し、賞金を贈呈しました。

3名、500千円

情報科学領域 「ベストティーチング賞」
情報科学領域 准教授 榊原 誠之
バイオサイエンス領域 「NAIST バイオ領域賞」
対象者なし
物質創成科学領域 「NAIST 学術奨励賞」
物質創成科学領域 助教 林 宏暢

2. 先端科学技術の普及啓発事業

大学院大学が理念の一つとして「社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいる、いわゆる産学官連携推進の活動のうち、当財団は2つの取り組みに関わり、大学院大学支援事業とは別枠で支援を行いました。

(1) 産学官交流事業

① 奈良先端大発 新産業創出支援事業

大学院大学では「企業や他の大学との共同研究」や「企業からの受託研究」、「企業からの研究者の受け入れ」を行っていますが、これとは別に、大学院大学で生まれた研究成果や技術シーズの実用化・製品化を目指して、関西地区の中小企業やベンチャー企業と連携して研究開発に

取り組む場合に、研究開発費用の一部を支援しました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1件が中止となりました。

4件、3,200千円

大学研究者	連携企業	研究開発テーマ	
情報科学領域 教授 松本 健一	(合)EASE創研	クラウドAI制御・股関節拘縮予防装置の開発	継続
バイオサイエンス領域 教授 高木 博史	ゴールデンラビットビール	機能性アミノ酸を高生産する酵母の育種とビール醸造への応用	継続
物質創成科学領域 准教授 安原 主馬	奥野製薬工業(株)	微細表面処理技術を活用した超撥水加工法の開発	継続
物質創成科学領域 准教授 服部 賢	(株)ユニソク	半導体絶対温度の高精度評価のための連続分光型放射温度計の開発	新規
情報科学領域 教授 池田 和司	(株)カンテラス	マルチモーダル排泄予測AI通知システムの開発	中止

なお、大学院大学と当財団の共催で、第13回目となる研究成果報告会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止し、情報公開として成果報告書をホームページに掲載しました。

②奈良先端大産学連携フォーラム

産学官連携活動を推進し社会の発展に寄与するため、大学院大学の先端的で独創的な研究成果を紹介するとともに、大学院大学の研究者と産業界の研究者・技術者との交流を図ることを目的として、大学院大学、公益社団法人関西経済連合会および当財団の共催で開催している。本年は第34回目として予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開催を見送りました。

3. 地域交流事業

(1) 地域交流

先端科学技術に対する地域住民の関心を高めるとともに、地域住民との相互理解を深めるため、関西文化学術研究都市の高山地区に立地する6施設（大学院大学、参天製薬(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、当財団）が協力して交流事業を実施したほか、当財団単独でも交流事業を実施しています。

①高山サイエンスタウンフェスティバル

高山地区に立地する施設で組織する「高山地区立地施設等連絡協議会」（以下「高山連絡協」という。事務局は当財団）の主催、奈良生駒高速鉄道(株)の協賛により、高山地区の振興と地域住民との交流を深めるため開催しています。令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催は見送りました。

なお、奈良先端大では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大幅な人数制限や事前予約制の導入等の対策をとりながら、令和2年11月15日(日)に、オープンキャンパスとして施設の一般公開や、様々な体験プログラムを開催されました。

②NAISTサイエンス塾

大学院大学の教員や学生を講師として、小学生を対象とした科学実験教室を開催しました(年8回計画)。

開催日 第110回 R2年4月11日(土)「私たちの体の設計図、DNAを抽出してみよう」

／内容 第111回 R2年5月16日(土)「パンを作る生き物イーストのひみつに迫ろう」

第112回 R2年6月13日(土)「マイコンとセンサーの世界に触れてみよう」

以上3回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止

第113回 R2年7月11日(土)「ロボット徒競走」

第114回 R2年9月12日(土)「ふわふわ感触!紙粘土スライムを作ろう!～紙粘土スライムづくりとペットボトル顕微鏡での観察～」

第115回 R2年10月10日(土)「つやつや?ざらざら?光を操って見た目を変えよう!」
(台風で中止)

第116回 R2年11月14日(土)「お花好き集まれ!～花のかんさつとスノードーム作り～」

第117回 R2年12月5日(土)「近未来の乗り物のヒミツに迫れ」

第118回 R3年1月16日(土)「レモンが電池になる!～電子オルゴールを鳴らしてみよう～」

場 所 高山サイエンスプラザ 大研修室

参加者 小学生133人(第113回～第118回は、人数の縮小、消毒液の設置等感染拡大防止対策を講じて開催)

③夏休み科学実験教室

夏休み期間中に、奈良女子大学理学部教授の小林毅氏を講師として、小学生を対象とした科学実験教室を開催しました。

開催日 令和2年8月8日(土)

場 所 高山サイエンスプラザ 大研修室

内 容 「カメラや距離計をつくって光の不思議を感じてみよう」

参加者 小学生24人

④親子科学教室

高山サイエンスタウンフェスティバルの催事として開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止となりましたので、代わりに第116回NAISTサイエンス塾を開催しました。

⑤科学に関する絵画展

近隣の市町の小学生から科学をテーマとする絵画を公募し、優れた作品を表彰し、理事長賞、優秀賞および入選の作品を、高山サイエンスプラザに展示しています。

令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止および小学校夏休み期間短縮のため、開催は見送りました。

⑥けいはんなプラザ・プチコンサート in 高山

高山サイエンスプラザのオープンギャラリーで催す若手音楽家による演奏会（年8回計画）を実施する実行委員会に対し、高山連絡協が協賛を行いました。

開催日 R2年8月17日(月) 「オーボエ&ヴァイオリン癒しの音楽」(オーボエ、ヴァイオリン、ピアノ)

／内容 R2年9月23日(月) 「ピアノ・パーカッション ランチタイム コンサート」
(ピアノ、ドラム)

R2年10月19日(月) 「Violin×Piano autumn concert」(バイオリン・ピアノ)

R1年11月16日(月) 「磨 椋平 ミニコンサート」(ピアノ)

来場者 149人

4月～7月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止しました。

(2) 情報発信

①財団機関誌の発行

「平成31年度に助成した教育研究活動・国際交流活動の成果についての大学院大学からの寄稿」、「令和2年度に行った大学院大学支援事業」、「平成31年度に行った産学官交流事業・地域交流事業の内容」および「当財団の概要」などを記載した財団機関誌「シーエンス」(CIENCE)第19号(部数700部)を令和2年11月に発行しました。

②インターネットによる情報発信

当財団のホームページ(URL: <http://www.science-plaza.or.jp>)において、催事などのお知らせのほか、財団の業務・財務に関する情報を適時公開しました。

4. 高山サイエンスプラザおよび駐車場の運営

高山サイエンスプラザおよび高山サイエンスタウン駐車場の運営状況は以下のとおりです。

(1) 高山サイエンスプラザ見学の状況

当期中の団体見学は、近隣の小学校2団体で、見学者数は226人でした。

(2) レンタルオフィスおよび研究者用住戸の状況

レンタルオフィスには1年間を通してテナント2社が入居し、また、研究者用住戸は海外からの研究者など延べ88人月の利用がありました。なお、研究者用住戸は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で、海外からの研究者の来日ができなかったこと等により、例年に比べて大きく減少しました(前年度169人月)。

(3) 会議室・研修室等の利用状況

大研修室は、「NAIST サイエンス塾」等、当財団の地域交流事業の会場として使用し、小研修室は企業の研修会に貸し出しました。さらに、屋上の一部を携帯電話無線局設置のため賃貸し、年間を通して使用させました。

(4) 高山サイエンスタウン駐車場の利用状況

駐車場については、1年間を通して定期券は1ヶ月券・3ヶ月券・6ヶ月券合計で約1,500枚、また1回券は約11,000枚の購入となりました。

(5) 施設・設備の維持管理の状況

設備等の老朽化に伴う修繕として、消防設備（自動火災報知設備）の更新（工事費 15,070 千円）等を行いました。なお、空調設備の更新を計画しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で収益事業の収入が減少したこと等により令和 2 年度の収支の悪化が見込まれたため、次年度に繰り越しすることとしました。

5. その他

(1) 理事会の開催

① 第 4 4 回理事会

開催日 R2 年 5 月 18 日（月） （定款の規定に基づく決議の省略）

② 第 4 5 回理事会

開催日 R3 年 3 月 24 日（水） 開催場所 高山サイエンスプラザ

(2) 評議員会の開催

① 第 2 9 回評議員会

開催日 R2 年 6 月 11 日（木） 開催場所 高山サイエンスプラザ

以 上

附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項については、該当なし。

監 査 報 告 書

令和3年4月26日

公益財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団
理事長 小林 哲也 殿

監 事

中 村 敏 彦



監 事

井 上 進 司



私たち監事は、公益財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団定款第29条第1項の規定に基づき、令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に務めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等について検討いたしました。

2 監査意見

（1）事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当財団の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

（2）計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当財団の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上